



## 体験から感じ学んだことを形にする～天城学習発表会に向けて～

総合的な学習の時間を使って行われてきた本校の「天城学習」が、いよいよまとめの段階に入りました。（「天城学習」については「克己5月号」をご参照ください。「克己」は天城中 HP にも掲載されています。）

10月下旬に実施した1年生の自然体験、2年生の職場体験、3年生の地域学習等では、保護者や地域の皆様のご協力の下、各学年のねらいに即した充実した体験を行うことができました。現在、12月9日（土）に予定している天城学習発表会に向けて、これらの体験で感じたことや学んだことを、個人またはグループ単位で紙面やスライドにまとめています。発表内容は、この1年間で学んだ内容が中心になりますが、3年生にとっては3年間の学びの集大成となることを期待しています。

1年生は、1学期に身近な地域の人々をつながりをつくるための福祉体験を行いました。今回の自然体験では、自分たちが住む伊豆半島の成り立ちやその自然のすばらしさなどを学ぶため、上船原のスコリア丘や旭滝、ジオリアなどを訪れました。また、台風の影響で一週間繰り下げとなりましたが、八丁池ハイキングも実施しました。天城自然ガイドクラブや伊豆半島ジオパーク推進協議会の皆様の説明を聞き、生徒は目の前に広がっている当たり前にある風景が、貴重な地球からの贈り物であることを実感し、その感動を俳句に表しました。

2年生は、1学期に人と自然との関わり合いの中から問題点を見つけ、シカによる食害を防ぐ活動や自然災害と向き合うための防災について学びました。今回の職場体験では、こうした課題を抱える地域の中で、地域ならではの取り組みや地域に生きる人としてどのような生き方が大切であるかを学んできました。キャリア教育の原点でもある働くことの意義についても生徒それぞれに感じとってきました。

3年生は、修学旅行で訪れた奈良や京都のまちづくりをヒントとし、1学期末までに自分なりに課題を設定しました。その課題の解決に向けて、今回の地域学習では、様々な職種や立場の人たちに直接会って取材等を行いました。また、遠方の場合には電話等で質問を行いました。これまでの天城学習の中で講話をしていただいた方や地域で新しい活動を始めた方、市役所など行政に関わる方など幅広い皆様にご協力をいただきました。いま、伊豆市に提言をする形で、自分の考えをまとめています。生徒一人ひとりの感性を大切にしながら、自分の思いがしっかりと相手に伝わるようにまとめられるかどうか勝負です。

このような活動を通して、多面的・総合的に考える力、コミュニケーション力、他者と協力する態度などの資質・能力を育成することが天城学習のねらいです。

## ようこそ天城中へ6千キロの彼方から～インドの先生方が学校を訪問～

11月10日（金）、ACCU（ユネスコ・アジア文化センター）が実施している国際交流教育事業の一環として、15名のインドの先生方が本校を訪れました。

きっかけは、新幹線に対する関心が高いことや首都圏以外の場所も訪問したいということから、1泊2日の日程で静岡県を訪問することになり、1日目は静岡市内のユネスコスクール訪問、2日目は伊豆半島ジオパークの見学と本校への訪問が実現しました。



約90分の滞在でしたが、授業参観と生徒との交流活動を行いました。授業参観では、体育、

理科、音楽、数学、英語を参観しました。柔道や箏など日本の伝統や文化に関連した学習が行われていたこともあり、インドの先生方も興味深く見入っていました。

交流会では、3年生の代表生徒が英語で学校紹介を行い、さらにインドの学校のことや天城中学校の印象などについて質問をしました。インドの先生方は小・中・高等学校等さまざまな校種の先生方がいて、それぞれのご自身の学校の特色などを熱心に答えてくださいました。その後全校で校歌を合唱しました。

最後にお互いにあいさつを交わし、生徒一人ひとりが先生方と握手をして別れました。ある生徒は、そのときの手のぬくもりや手に残ったかすかな芳香に、「インドの人たちがとても身近な人に感じられた。」と感想を語っていました。生徒にとっては国際理解につながる貴重な経験となりました。

## 後期生徒会活動が始動

会 長	堀江 結衣 (2 A)			
副 会 長	加藤木朱夏 (2 A)	堀江 碧 (2 B)	小澤 芽依 (1 A)	
執行委員	齋藤 杏実 (2 A)	遠藤 陽向 (1 A)		

10月中旬より新しい生徒会組織が任命され、実際に動き出しました。後期は、2年生が中心となって生徒会を動かしていきます。11月15日、16日と2日間かけて行った「王様ドッジボール」は、全校生徒が楽しく参加しとても盛り上がりました。

生徒総会では、各委員会活動の方針が承認され、新しい行事についても話し合われました。「みんなの気持ちを一つにして盛り上げられる行事を考えられないだろうか。」例年やっていないこと、新しいことを考え出すことは経験の少ないメンバーには難しいことです。しかし、話し合い活動では不慣れな点がいくつかありますが、生徒一人ひとりの意見を活かそうとする意図がよく伝わってきます。今後の成長に期待したいところです。



## 朝食調べより

先日、県の依頼で朝食調べを行ったのですが、たまたま本校が抽出校に選ばれました。多くの生徒が朝食を食べているという結果が出ており、その点ではそれほど心配はありませんでした。しかし、誰と食べているかという問いに対して、一人で食べているという生徒がとても多いように感じます。

偏食は、かあちゃんが許さない。

過食は、ばあちゃんが許さない。

「孤食」は、家族が許さない。

これは、平成24年度「親子で話そう！

家族のきずな・我が家のルール」三行詩募集で優秀賞の一つに選ばれた作品です。

食卓は家族がコミュニケーションをとる大切な場だと思います。面と向かって話をするより、食事をしながら何気ない日常の会話を楽しむ。その中に大切な情報も出てくるかもしれません。最近はお母さんが仕事で忙しかったり、子どもは塾や習い事、部活等で忙しかったり。せめて、朝食だけでも家族そろって食べられる努力をしたいものです。また、せっかく顔を突き合わせているのに、説教や注意する場になってはいけませんね。

「孤食」は、家族が許さない。そんな家族が増えることを願っています。

### あなたは、きょう朝食を食べましたか



### だれと食べましたか

